

平成 28 年度 第 2 回練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議録（概要）

- 1 日時 平成 29 年 3 月 17 日（金） 午後 3 時～4 時 45 分
- 2 場所 生涯学習センター 第 1 教室
- 3 出席者 川井座長、岡本副座長、井藤委員、中島委員、長富委員、田村委員、
小山委員、奥本委員、尼子委員、小澤委員、押田委員（練馬区教育委員会
事務局社会教育主事）
（練馬区）文化・生涯学習課長、文化・生涯学習課管理係副係長、主事
（事務局）生涯学習センター所長、副所長、生涯学習センター分館長
- 4 欠席者 漆澤委員
- 5 傍聴者 0 名
- 6 次第
 - (1) 文化・生涯学習課長あいさつ
 - (2) 議題
平成 28 年度事業結果報告について
平成 28 年度施設利用状況について
平成 29 年度からの生涯学習センターの体制について
平成 29 年度事業計画について
（仮）学びと文化の情報サイトについて
 - (3) その他
- 7 配布資料
 - 資料 1 平成 28 年度 事業結果報告(平成 29 年 2 月事業終了分まで)
 - 資料 2 平成 28 年度 施設利用実績(平成 29 年 2 月分まで)
 - (2)利用件数内訳、(4)年度別利用件数内訳の推移、(5)利用者数の変化、(6)
有料利用件数・収納金額の変化についての数値は平成 29 年 1 月実績分まで
 - 資料 3 平成 29 年度からの生涯学習センターの体制について
 - 資料 4 平成 29 年度事業計画(案)参考資料 平成 29 年度「練馬 E n カレッジ」パンフレット
平成 29 年度春季「縁ジョイ倶楽部」チラシ

8 会議の概要

(1) 文化・生涯学習課長挨拶

小金井靖文化・生涯学習課長挨拶

(2) 議題

<座長> それでは、議事に入る前に、本日の出席委員数の報告を事務局からお願いする。

<副所長> 本日の出席者数は 11 名。なお、漆澤委員から所用により欠席の連絡を受けている。また、本日は、傍聴の方はおりません。

<座長> 議事に入りたいと思う。事務局から資料に沿って説明をお願いする。

平成 28 年度事業結果報告について
所長より資料 1 に基づき説明

平成 28 年度施設利用状況について
所長より資料 2 に基づき説明

<座長> と について質問等ございましたらお願いしたい。

<委員> 資料 2 の(5)利用者数の変化の表でどの部屋も人数が減っているが。

<所長> 平成 28 年度から統計の取り方を変えている。利用者に利用終了後、人数を記入して「利用カード」を提出してもらっているが、同じ団体が複数の部屋を使っている場合、今までは、利用者総数を利用したすべての施設でカウントしていたが、平成 28 年度からダブルカウントにならないように、また実態に合うように各部屋に按分する形で統計を取っている。今後も同じように統計を取り、年度ごとに比較していきたい。

<委員> 平成 26、27 年度が 12 か月の集計で平成 28 年度が 1 月までの 10 か月の集計というのが、利用人数減の理由とっていたが。(5)利用者数の変化の表の意味が分かりにくい。

<所長> 平成 28 年度については 10 か月分なので、10 で割って 12 を掛けると概ね年間

の数値が出ると思う。人数が減っている要因として、先ほど説明した部分も関係している。次回の運営懇談会では平成 28 年度も年間の確定した数値でお示しをして比較をさせていただきたい。

平成 29 年度からの生涯学習センターの体制について
所長より資料 3 に基づき説明

<座長> の「平成 29 年度事業計画」と関連してくるので、その説明が終わってから質問をお願いします。

平成 29 年度事業計画について
所長より資料 4 および平成 29 年度春季「縁ジョイ倶楽部」チラシに基づき説明
分館長より平成 29 年度の「練馬 E n カレッジ」パンフレットに基づき説明

<座長> 練馬 E n カレッジについて、講師として育てあげたのか、そこで育った人を講師としているのか。

<分館長> 地域講座を受講した方の約 7 割がすでに活動し、または次の活動のための学びである分野別専門講座を開始している。例えば、防災に興味を持たれた方は防災カレッジを受講する等、次のステップに進んでいる状況にある。

<座長> 練馬 E n カレッジは、生涯学習センター運営懇談会の議題としては新しい事業になるので、ご意見をお願いしたい。

<委員> 練馬 E n カレッジはいつから行っているのか。過去の実績等が示されれば、理解が深まると思う。

<分館長> 過去の事業実績等については、次回の運営懇談会でお示しする。

<委員> 練馬 E n カレッジは生涯学習センターが窓口になる。実際の事業運営はいろいろな部署が行うということで、パンフレットを見たとき練馬区全体の生涯学習の計画かと思った。われわれ委員は生涯学習センターの運営について話し合うのが役割であるが、窓口の広い練馬 E n カレッジと生涯学習センターの運営とどういう関係があるのか。また、生涯学習とは、「高齢になっても学習を続けましょう」なのか「子どものときから高齢になるまで学習を続けましょう」なのか、その辺の位置付けがよくわからない。

<委員> 分野別専門講座はいろいろな部署が行っているが、生涯学習センターが取りまとめるのか。自分も「日本語ボランティア養成講座」を20年前に受講した。当時は7団体で現在14団体だが、ボランティアの数は不足している。定員が20名だが同じ内容で別の期間にもう1回する等の申し入れを生涯学習センターができるのか。また、こういう講座を実施しているというPR活動も必要では。

<委員> 所管でやると講座終了時に終わってしまうことが多いが、練馬Enカレッジの共通講座・地域講座では広く活動していくという趣旨のものだと思う。拠点は分館であっても、本館では相談と分館につなげる役割を担っていくと思っている。

<副座長> 共通講座、地域講座、特別講座は生涯学習センターで企画・運営するの考えて良いか。

<分館長> 分野別専門講座は各主管課で行うが、共通講座、地域講座、特別講座の3種類については、平成29年4月から生涯学習センターで行う。

<課長> 先ほど「平成29年度からの生涯学習センターの体制について」所長から説明があったが、練馬Enカレッジとも関係があるので補足する。生涯学習センター分館で一昨年度から練馬Enカレッジの事業を開始している。大学で1~2年生が受けるかつての一般教養部門と考えられるのが地域講座。一方で大学の3~4年生が受講する専門講座部門については、分野別専門講座として、区の各主管課で行っている。一般教養講座である地域講座等は生涯学習センター分館で行うという仕組みになる。また、練馬Enカレッジは文化・芸術とは別に地域で活躍できる人材の育成を目的としている。4月から分館の職員が全員本館にくる。生涯学習センター本館で事業を企画していく。事業の中身については、次回の運営懇談会で説明する。

縁ジョイ倶楽部については、寿大学の進化バージョンで、今まで生涯学習センターで活動してきた文化・芸術団体の支援を目的としている。

2つの支援があり、文化・芸術の分野については縁ジョイ倶楽部、地域での活動については練馬Enカレッジになる。

また、生涯学習センターの役割は大人を対象とした生涯学習になるが、児童合唱団については、子どもが継続して活動する施設が生涯学習センターになるので、生涯学習センターで行う仕切りになっている。

(仮) 学びと文化の情報サイトについて

プロジェクターを使って、文化・生涯学習課管理係・主事から説明

(3) その他

<委員> 今日の資料を見ていて満足度、利用率、利用額等の報告と想っていたが、練馬Enカレッジ等の話があった。これからの懇談会の報告の内容も人材がどのように育っているのか、サークルの活動がどれくらい活発化しているか等の報告に変えていって欲しい。生涯学習センターの成果も適正に評価できる。

<座長> 情報サイトが始まることにより、生涯学習関係の冊子はなくなるのか。

<文化・生涯学習課管理係副係長> 冊子の部分の施設編についてはサイトに移行するが、事業編の前半のイベント情報については、別刷りで「学びと文化のイベント情報」として引き続きご提供していく。

<座長> 高齢の方や障害のある方もいるので、サイトに一元化するのではなく、いろいろな手段での情報発信を考えて欲しい。

<委員> 生涯学習センターの主体性が感じられない。区の70周年記念として合同文化祭を行うなら何か目玉を作って盛大にやって欲しい。施設を貸し出すのが主なのか、練馬Enカレッジのように取りまとめをするのか、生涯学習センターの性格付けをはっきりした方がよい。

<所長> 事業については、満足度だけではなく、何を成果とするのか、何を指標とするのかを今後検討して、より良い事業を組み立てていきたい。座長から話のあった紙媒体での情報提供についても今後事務局でも検討していく。今後情報の収集・情報の発信についてはサイト、紙媒体も含めて充実させていきたい。また、生涯学習センターの主体性の件について、これまでは生涯学習センターの主催事業として行ってきた。今後は区民の方にスポットを当て、生涯学習センターが区民の方の活動を支援していくという形で行ってきたい。

<課長> 先ほどお話のあった日本語講座や人権教育も生涯学習センターが最初に行ってきた。今は区役所の中に専門の主管部ができ、そこで行っている。学びの機会についても民間の講座や大学の公開講座等があり、昔と違いどこでも勉強できるような環境になっている。その中で生涯学習センターの役割について議論し、平成29年度から事業を再編してスタートしていく。次回の運営懇談会で議論して、新たな指標についても決めていきたい。「地域で幸せに暮らせる」ということに向けて今後もご意見をいただきたい。

<副座長> 平成 29 年度は転換期ということで、人材育成、情報サイトの確立、団体支援の 3 つの柱があり、新たにスタートしていくという印象を受けた。ただ情報サイトに乗り遅れてしまう人がたくさん出てしまうという心配がある。乗り遅れの人が出ないように支援をお願いしたい。新しい指標についてお互いに議論できる場になったら、より充実した会になると思う。

<座長> 現在、運営懇談会は年 2 回開催しているが、平成 29 年度は大きな転換点になる。生涯学習センターが区の生涯学習の拠点になるならば、年 2 回開催では少ないと思う。次回は新年度の第 1 回として 8 月 25 日を予定しているが、間隔が空きすぎてしまうことを懸念している。

本日は貴重な時間を割いてご出席いただき感謝する。今後ともよろしく願います。